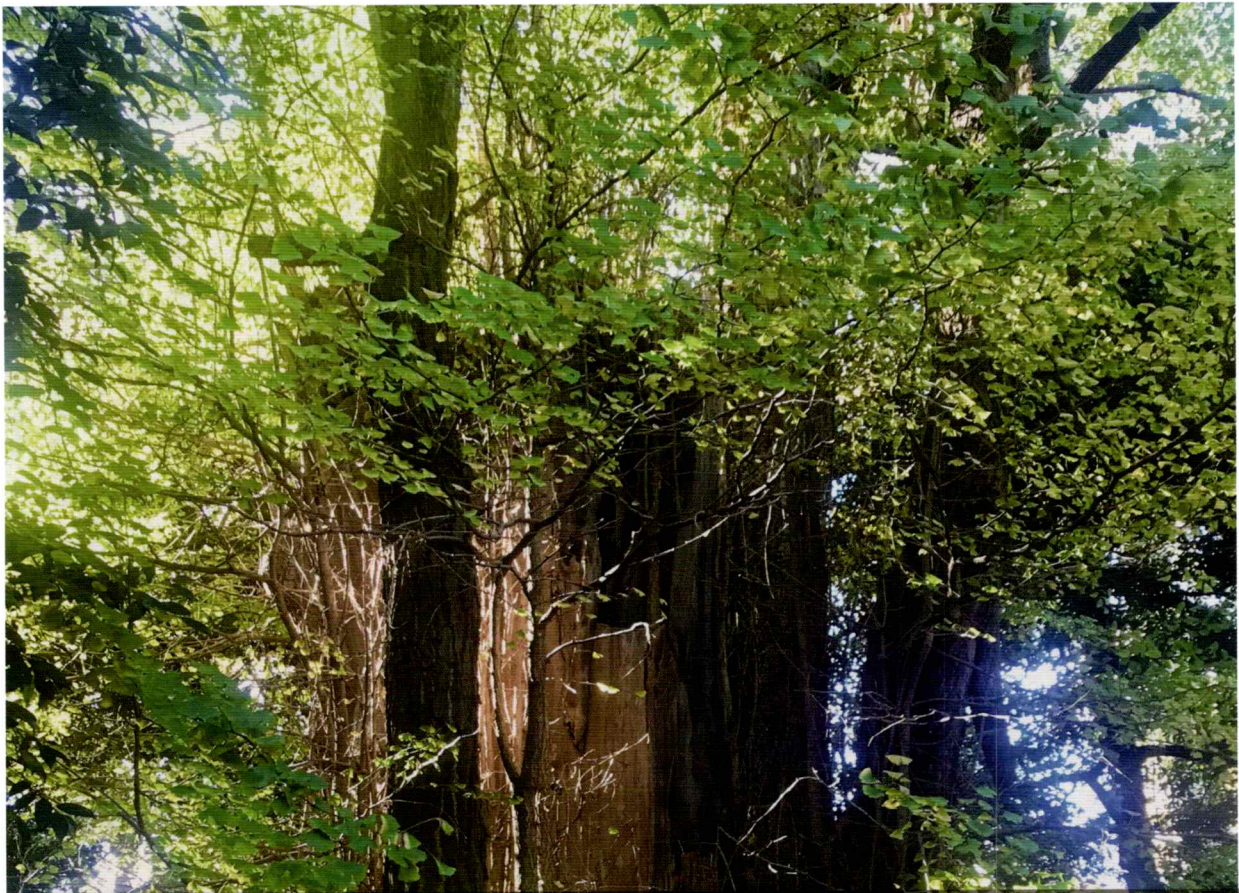




府中地区保護司会だより

第51号

発行 府中地区保護司会 会長 高野佳子



カメの休み

府中地区保護司会 副会長

小澤 秀敏



今から40年ほど前、ヨット仲間から「亀城礁でカメを見た、そして甲羅には『姫路27』と書かれていた」と聞いた。三浦半島荒崎海岸西方沖合いに広がる岩礁は、相模湾を航行する船にとっては難所の一つであるが、仲間が航行した日の海は穏やかだったであろう。私は「亀城に、本当にカメがいた」というだけで驚いたし、出来ればこの目で見たかった。ほどなくして、ウミガメに印を付けて回遊調査をしているとの記事が全国紙の文化欄に掲載された。姫路市立水族館館長の話だったので、すぐに館長に手紙を書いて、友人が見たカメは同館が調査のために放流したカメであることを確認、後日館長を往訪して交流を深めた。

私たち保護司が接する「対象者」は、このカメのように、荒波に揉まれながらも今は心や体を休めていて、これからどの方向に行こうか、どこまで行こうか、思索しているところではないだろうか？どこまでの支援やアドバイスが出来るか分からないが、出来る限りのことはしたい。

さて、姫路からやってきたカメは、あれからどこへ向かって泳いで行ったのか？そして今も元気になっているのか？海を見るたびに思い出す。



今年度から府中地区を担当させていただきます。
 いただいたお礼です。坂本と申します。
 立川支部に着任するまでは、四国地方更生保護委員会及び甲府保護観察所で法務事務官として勤務しました。思い返してみると、採用された時の目標は「行動範囲の広い保護観察官」になることでした。保護観察の業務はいかに地域社会にネットワークを構築し、その調整者としての幅を広げることが重要であると考えていたからです。

5年目となった本年も、すでに府中地区の保護司の先生方には、保護観察処遇のことはもちろん、地域の特色をつぶさに教えていただいたり、自治体の方々のつながりを持たせていただいたりするなど、多方面にわたり心温かいサポートをしていただいております。先日、府中地区では「ハイブリッド方式」による地域別定例研修が実施されましたが、このことに関しても、コロナ禍においてもさまざまな調整や準備に尽力し続けていただいた保護司の先生方、また、御協力いただいた関係機関の方々のおかげだと感じております。保護観察が地域社会に支えられていることを改めて認識いたしました。

「行動範囲の広い保護観察官」という目標は、いまま変わりません。しかし、それは独力ではなしえず、長きにわたり地域で生活されている先生方のお力が必要不可欠だと切に感じております。未熟ではありますが、積極的に観察所の外へ出ていき、各種会合等にも参画していきたいと考えておりますので、その際は御指導のほどよろしくお願い申し上げます。



令和4年6月24日に立川支部管内保護司代表者協議会及び多摩地区保護司会連絡協議会理事会が開催されました。約2年間のコロナ禍で行事中止が続きましたが、今回は各地区4名が参加し、縮小した形で行われました。理事会では令和3年度の事業報告・収支決算報告、4年度の事業計画案・収支予算案が承認され、総務部・研修部・地域活動部・広報部とそれぞれが活動を始めています。多摩9地区の保護司会の情報交換として連携を密にし、立川支部管内の保護司活動の充実を図り、更生保護活動を組織的に支援しながら事業を進めるとのことです。

12月2日には令和4年度の受彰祝賀会、令和5年2月27日にはパルテノン多摩での全体研修会が、3年ぶりに開催予定です。久しぶりに参集しての事業を楽しみに待ちたいと思います。



今回は令和3年中の少年非行の状況について報告します。府中警察における非行少年の検挙人員は44人で、前年比マイナス2人となっています。犯罪種別では、万引きと自転車の窃盗が最も多く、次いで暴行傷害等の粗暴犯となっています。非行少年44人の内、14歳未満で刑罰法令に触れる行為をした少年の人数は12人で、この内の約8割が小学生による万引きとなっています。警察庁全体では非行少年の検挙人員は減少傾向にあるものの、大麻取締法違反で検挙した少年は17人で平成25年から9年連続で増加しており、極めて深刻な事態と言えます。また、万引きで検挙した少年は1035人で、小学生が42人、中学生が180人、高校生が24人で小学生が最も多く低年齢化が問題となっています。府中警察署では、市内の各学校と連携し、授業の一環として薬物乱用防止教室や万引き防止教室を開催し、子供達に直接、大麻等違法薬物の危険性や万引きの違法性を訴えかけ、薬物乱用防止及び万引き防止に努めています。

令和四年度定期総会 令和三年度受彰者を祝う会

総務部 市川 耕作

令和四年度定期総会が五月十三日（金）に三年ぶりにルミエール府中にて開催されました。コロナ感染症のため昨年と一昨年は書面による総会決議となりましたが、コロナ感染症対策を講じて予防に努め開催されました。

総会開催に先立ち、令和三年度の藍綬褒章、法務大臣表彰をはじめとする受彰者十四名、在会二十年二名、



高野佳子会長

在会十年五名の祝う会を実施しました。受彰者を祝う会には、東京保護観察所立川支部の坂本保護観察官にご臨席を賜りご祝辞を頂き、受彰者には賞状、花束と祝い金が贈呈されました。受彰者の皆様大変おめでとうございました。今後とも保護司会活動へのご協力をよろしくお願い致します。

定期総会では従来は多数の来賓をお招きして開催しますが、コロナ禍でもあり高野府中市長と坂本保護観察官のご臨席のもと開催することができました。総会出席者四十二名、委任状提出者十三名で、会則第十六条の規定に基づき、過半数を満たしていることから、本総会は成立して



坂本幸美保護観察官



高野律雄府中市長



いる報告がありました。高野佳子会長の挨拶に続き、議長に佐藤政利保護司、副議長に伊藤ゆきえ保護司が指名され、第一号議案「令和三年度事業報告」、第二号議案「令和三年度歳入歳出決算」、第三号議案「令和四年度事業計画（案）」、第四号議案「令和四年度歳入歳出予算（案）」の四件について各部・委員会より報告され審議されました。全ての議案が賛成多数で可決されました。

総会終了後には、この一年以内に入会された三人の新任保護司が紹介され、一人ずつ挨拶を頂きました。今後の活躍を期待致します。本来であれば総会後には懇親会を実施して

会員同士の親睦を深めることになりましたが、未だコロナ感染症が収束しない状況であるため懇親会は中止となりました。来年は懇親会ができることを期待します。



令和3年度受彰者

退任保護司

長い間ありがとうございました

内藤 安雄

令和四年八月三十一日付

2回 くする運動



府中市 推進大会

地域活動部 市毛 彰

第72回「社会を明るくする運動」府中市推進大会が、2022年7月8日14時から府中市市民活動センタープラッツのバルトホールで開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により2年間中止が続き、3年ぶりの開催となりました。

毎年7月は、「社会を明るくする運動」の強調月間で、府中市では、府中地区保護司会を中心に推進委員会を組織して運動を展開しています。2年前に出演者として決まっていたシンガーソングライター「風見穩香さん」による音楽コンサートを今年実現することが出来ました。今回、会場の収容人数を制限し、111名の方に来場いただきました。また、初めての試みとして、音楽コンサートの様子をインターネットでライブ配信し、会場に来場できない方にも参加いただきました。コンサート後でも、視聴可能ですので多くの方に視聴していただきたく思います。

風見穩香さんは、茨城県古河市出身で、音楽活動のみならず、自身の経験から不登校支援や学校講演など全国で活動しています。実家の茨城県境町にて母親と共にカフェも経営しています。風見さんは、犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域の活動に関心を持っており、今後更生保護活動の場が広がることを願っています。



音楽 コンサート



風見穩香さん

シンガーソングライター 風見穩香



「社会を明るくする運動」府中市推進大会の音楽コンサートにご招待いただく前にたまたま漫画を読んで知っていた「保護司」：漫画やドラマのフィクションの世界ではなく、犯罪や非行をした人たちの立ち直りをサポートする保護司がこの世に本当に存在していることに正直驚きました。困らせてくる人は困っている人できっと何か理由があつてそうになっている。自殺も犯罪も紙一重で、責めることでは誰も救われなし、何も解決しない。もつと辛かった自分自身に寄り添ってほしい。誰も傷つけなくていい。私のコンサートを通して一人でも多くの方がもつと自分にも人にも優しくして良いのだと、知ってもらえたら幸いです。





音楽コンサートのインターネット動画の視聴は以下のURL
あるいはQRコードから視聴可能です。
<https://youtu.be/ry0MG09eXtU>



第7 社会を明るくする運動



街頭広報活動 (非接触型)



懸垂幕
フォーリス壁面



ポスター掲示
ルミエール府中



映像配信
ぐるるビジョン

地域活動部 林 宏 至

子供の頃に見た小松左京の『日本沈没』がとても怖かったのを今でもよく覚えています。

6月中に梅雨が明けてしまい、気温が40度を超える地点が出る中、再度のコロナ感染拡大が懸念をされ「日本はどうなってしまうのか」と考えてしまうのは私だけでしょうか？

本来であれば、市内の中学生と共に「社会を明るくする運動」の街頭広報活動を行うところですが、本年も非接触型での対応となりました。

何の制約もなく、皆それぞれが自由にごせる毎日がいつになったら戻ってくるのでしょうか。街頭広報活動を含め様々な保護司会の活動の行いなどを、今後は見直していかなければならない状況になってきているのかと改めて感じております。

誰もが明るく過ごせる日々、子供達に夢と笑顔を与えられる活動を願っております。



中学生への啓発グッズ配布



パネル展示
市役所市民談話室



令和4年度(春)

受章者

瑞宝双光章を受章して

西腰 美恵子



令和4年春の叙勲に際し、瑞宝双光章の栄を賜りました。更生保護に携わる皆様に見守られ、関係諸機関の御協力をいただき、活動を続けてこられましたこと心より感謝申し上げます。

大國魂神社に続く櫻並木の緑、桜の時期の桜通り、新府中街道、多摩川等、府中は自然と歴史が豊かな街です。この府中で保護司として多くの出会いがあり、成長することができました。

終戦後、両親達が復興に力を尽くした平和な国で、平穏に暮らしています。現在、世界規模のコロナ禍とウクライナの災禍は報道で伝わっています。世界中の子供たちの未来が平和でありますように願っています。

府中市立府中第四中学校合唱部

「日本一の3冠の快挙」

学校との連携委員会担当委員

若松 正子

例年、市内公立中学校全11校の生徒の皆さんには「社会を明るくする運動」にご協力をいただいています。街頭広報活動では、学校単位に分かれて、けやき並木を中心に、道行く人たちに啓発用のチラシやティッシュなどを配布しながら、本運動の協力と呼び掛けています。しかし、ここ3年間は新型コロナウイルス感染拡大により、街頭広報活動はできず、非接触型広報活動を行いました。又、作文コンテストにも応募していただき、社明運動への理解を深める機会となっております。

平成30年「第68回社会を明るくする運動府中市推進大会」では東京都立府中西高等学校合唱部と府中市立府中第四中学校合唱部の合同コンサートが初めて開催され、全国大会出場校でもある両校のすてきなハーモニーに魅了されました。

府中四中合唱部は、令和3年、「全日本合唱コンクール全国大会」「NHK全国学校音楽コンクール」「TBS子ども音楽コンクール」において、全て日本一の3冠を勝ち取り、歴史に残る快挙となりました。この快挙を讃え、府中市からは市民表彰が贈られました。

3月末にはコンクール受賞記念として、府中の森芸術劇場で、公益財団法人府中文化振興財団と共催の「春のコンサート」が開催され、多くの市民が集いました。会場いっぱい



に広がる合唱部の歌声に包まれ、日本一を満喫しました。
ご指導にあたられた先生方、生徒の皆さんのコロナ禍での練習は、様々な苦労や困難があったと思います。日本一への道には、合唱部を愛する地域のチカラがあったことを教えられました。合唱部の更なる活躍を心から期待しています。

令和4年度第1期地域別定例研修
「良好措置・不良措置について」

研修部 廣野 ひとみ

六月十五日(水)定例研修が開催されました。今回は、サポセンから坂本幸美保護観察官に講義していただき、プラッツの会議室で視聴、又は、自宅・職場などからZOOMで参加するという、初めてのハイブリッド方式による研修でした。資料を参照しながら一つ一つの項目を解りやすくお話ししていただき、とても勉強になりました。

良好措置・不良措置を効果的に活用するために、適切な時期や方法を理解する必要があります。研修で学んだことを、これからの活動に活かしていくことが出来たらと思います。しかし、配信ということで、聞き取りにくい時や、二重に聞こえてしまうことがあり、それはこれからの改善点ではないかと思えます。

今後、このような研修は、この状況を考えると増えていくと思われれます。上手に活用して多くの知識を取り入れていけたらと思います。



活動拠点・大樹のようなサポセンに

サポートセンターふちゅう 運営委員

内藤 治

サポートセンターふちゅうの活動運営体制の骨格基礎は、出来つつあるが模索・改善続行中である。本年4月14日第1回サポセン運営委員会が開催され、新たに5名が増員され17名の体制になった。これを受け、運営委員の互選にて加藤センター長以下、副センター長、総務、会計の9名の役員を選出した。同日、第1回の企画調整保護司全体会議を、増員された19名を加えて32名で実施し、充実した人的体制でスタートした。振り返れば、平成26年のサポセン開設以来、組織運営のあるべき姿につき議論・試行を重ねて、昨年度までの4分掌を改め本年度5分掌と改定して、運営委員が中心になり常に変化しつつ現実に沿った活動体制で各部会や委員会に対応できない所を補足しながら活動してきた。

A サポセン運営委員の5分掌

本年度5分掌の具体的な活動分担任は、①駐在時の研修での処遇協議や研修の企画と記録 ②各部会との連絡・日程調整・スケジュール管理 ③サポセン関係の広報活動 ④備品の整備・管理 ⑤関係機関との連携。

情報収集 などである。その中で広報活動の具体例を挙げると、会員向けの「サポセン情報」は隔月にて既に第10号まで(令和4年7月時点)発行し、会員相互のリアルな会合が行いにくい中で間接コミュニケーション・情報共有に貢献でき、また、保護司会だよりの専用コラム「サポセンの窓」は既に2回投稿し、サポセンの活動内容の対外的な紹介も行うことができた。

B 今年の取組みについて

「保護司委嘱後、一定年数経過後、すべての保護司が押しなべて在任中に企画調整保護司を経験し、サポセン運営をより多くの保護司に委ねる」ことで、サポセンを身近に感じてもらい、そのことにより保護司会組織を更に活性化することに結びつける方針である。今年の企画調整保護司とその運営委員の大幅な増員を受けて、コロナ禍などの社会情勢の変化に迅速・臨機応変・機動力のある対応ができる運営組織や業務遂行体制とし、活動内容の充実が図れるものと期待する。

府中地区保護司会コラム⑮

銀竜草(ギンリョウソウ)の花

藤井 幸夫



コロナ禍の出控えが続き、好きな山歩きもままならない。ようやく、田舎の裏山でじっくりと歩く機会を得た。その朝、樹林の暗がりに輝くものを見て心が躍った。身体を寄せあう銀竜草の花は、若い頃に尾瀬で見つけて以来だった。異様な姿に化け物と云う人もいるが、葉緑体を持たず光合成のできないだけの植物。花が咲いて実も種も作るが、生活は菌類に養われている。銀竜草の花、懸命に生きる姿は感動的だった。

自然界には多種多様な生物が複雑に繋がりあう役割を持って生きている。私たちは有益には手を差し伸べるが、それ以外は見向きもしない。未知のものなら反って身構える。だが、役割が見えずとも必ず存在する役割を持つはずだろう。私たちの社会でも誰にでも生きる役割がある。互いに繋がり理解しあって、一人一人が大切にされる社会でありたい。



保護司の登場する映画

矢島 千里

『前科者』（2022年1月公開）

は保護司の活躍を主題にした数少ない映画です。先行でWOWOW製作の連続ドラマ放映、引き続き映画一般公開、というふたつの形で映像化されました。特にドラマの方はタイトルに『新米保護司、阿川佳代』というサブタイトルがついているように、対象者と向き合う保護司を軸に、いくつかの典型的事例に沿って丁寧に物語が綴られていきます。一方、映画の方は対象者、保護司、それぞれの事情と立場を掘り下げた内容です。

どちらも冒頭「保護司とは犯罪者や非行少年の更生を助ける非常勤の国家公務員。民間人の奉仕精神だけで行い、報酬は一切ない」というテロップが入り、それだけでも保護司への認知と理解が得られる作品だと思えます。

ドラマ『前科者・新米保護司 阿川佳代』
監督・編集・岸善幸 岡下慶仁
脚本・港岳彦 音楽・岩代太郎
出演・有村架純 石橋静河 大東駿介 古川琴音
映画『前科者』
監督・編集・脚本・岸善幸 音楽・岩代太郎
出演・有村架純 森田剛 磯村勇斗 若葉龍也 石橋静河 他
原作・香川まさひと・月島冬二「前科者」(小学館「ビッグコミックオリジナル」連載)



保護司の登場する本

前田 久美子

『繋がれた明日』

真保裕一著 新潮文庫

少年刑務所を出所した26歳の男。更生を邪魔する様々な出来事がある。保護司に見守られながらも日々無事に過ごすことができるのだろうか。

『仮釈放』

吉村昭自选作品集第13巻 新潮社

終身保護観察を受ける仮釈放中の主人公。保護司等まわりの人々との関係で成り立つ生活がつづく。そして、そして、衝撃的な結末が……。

『にらみ』

長岡弘樹著 光文社

保護司への傷害事件の取り調べをしている刑事。被疑者は仮釈放中の身。しかし、保護司にも何か秘密があったらしいのだ。



©香川まさひと・月島冬二/小学館
©2021「WOWOW オリジナルドラマ『前科者-新米保護司 阿川佳代-』製作委員会
WOWOW オンデマンド全6話配信

訃報

市川 寛氏 享年九十歳
令和四年七月十九日逝去
(平成十五〜十八年度会長)
心よりご冥福をお祈りいたします

活動日誌抄

- 4月
 - 東京都薬物乱用防止推進協議会
 - 東京府中ロータリークラブ
 - 創立60周年記念式典
- 5月
 - 府中地区更生保護女性会総会
 - 紫翠苑落成記念式典
 - 多摩連常任理事会
 - 社会福祉協議会理事会
 - 紫翠苑評議員会
- 6月
 - 東京保護司代表者協議会・理事会
 - 事務担当若者運営連絡協議会(リモート)
 - 東保連第一委員会
 - 保護司特別研修
 - 保護司候補者検討協議会
 - 府中市要保護児童対策地域協議会
 - 府中地区桐友会総会
 - 立川支部管内保護司代表者協議会
 - 多摩連理事会
- 7月
 - 府中七中道徳授業参観(更女主催)
 - 処遇基盤力強化研修
 - 府中市民生委員推薦会
 - 多摩連四部会
 - (総務・研修・地活・広報)
 - 第七ブロック協議会準備会

編集後記

このようなことからウクライナの都市名を知り覚えてしまうなんて……。悲惨な映像を見るにつけ、胸が苦しくなります。この保護司会だより51号が発行される頃には侵攻が止み、よりよい解決がなされてほしいと願うばかりです。

一方、国内に目を向ければ、コロナ禍は続き、心痛む事件・事故・事象もおきてはいますが、日常の生活は紛争とは無縁でおくることができています。ありがたいことです。

広報部も、この春発行の50号を節目とし、又、新たな一歩を踏み出しました。記事の内容や部会のあり方等更なる充実を目指し、部員一同、知恵と勇気(?)ですすんでいくつもりです。皆様方には、これからも今まで同様のお力添えを、どうぞよろしく願います。前田久美子

広報部

部長	室 惇子	吉野 博文
副部長	隆 ミワ子	古川 耕央
書記	田中 節子	中込八重子
会計	前田久美子	石塚百合子
部員	赤塚 正坦	矢島 千里

題字は高野市長の揮毫によるものです
表紙の写真「大國魂神社御神木の銀杏」
撮影 広報部 矢島千里